

## 令和元年6月定例会

### 教育行政についての質問

- ・コミュニティスクールについて
- ・支援員について
- ・学校行事におけるバス送迎について
- ・エアコンの設置進捗状況について

#### ◆8番（井澤毅君）

通告に従い教育行政について質問させていただきます。

まず、コミュニティスクールに関する事柄について幾つかお伺いします。平成29年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正で、教育委員会は学校運営協議会を置くように努めなければならないとなり、学校運営協議会制度、いわゆる文科省型コミュニティスクールの設置が努力義務となり、上田市においても既に文科省型のコミュニティスクールを設置していた浦里小学校、川西小学校以外の学校も全て平成28年度末から信州型コミュニティスクールとなり、市内全ての小中学校がコミュニティスクールとなりました。文科省型、信州型の違いはさておき、コミュニティスクールとは、学校と保護者や地域の皆さんがともに子供たちの豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを進める仕組みであります。子供たちを取り巻く環境や学校が抱える複雑化、困難化しているさまざまな課題解決にも地域住民や保護者の支援が必要となっています。そして、地域の皆さんの力をかりながらともに学校づくりを進めていくには、市教育委員会としても当然それなりの対応をしていかなければなりません。

初めに、小学校の登下校の見守り体制についてお伺いします。先月川崎市登戸駅付近で通学途中の小学生や保護者が次々と刃物を持った男に襲われるという凶悪事件が発生しました。このような蛮行からどうしたら子供たちを守ることができるのか、そんな問いかけに無念さばかりがこみ上げてくるわけですが、まずは今の見守り体制を確認し、強化、充実していかなければなりません。そこで、お伺いします。現在市内各小学校の見守り体制はどうなっているのかお伺いし、最初の質問といたします。

#### ◎教育長（峯村秀則君）

各校の見守り体制についてご質問いただきました。市内小学校の登下校時の児童の見守りにつきましては、現在ほぼ全ての学校で子供たちを見守る組織が立ち上がっております。子供たちを見守る組織は、学校や保護者だけでは登下校時の安全確保の対応に限界があることから、地域の子供は地域で守るという観点から、地域の皆さんと連携して地域ボランティアによる見守り隊を結成していただいております。通常の登下校時だけでなく、学校から依頼のあった緊急時にも見守り隊の皆さんが通学路の交差点等で見守りやパトロールを行っていただいております。特に昨年は5月に発生した上田市市内での警察官殴打事件の発生を受けまして、長い間子供たちのために登下校の見守りやパトロールを全市において行って

いただきました。見守り隊の皆さんの日々の活動に心から感謝をしているところでございます。以上でございます。

◆ 8 番（井澤毅君）

各学校の見守り体制についてご答弁いただきました。政府においても昨年5月新潟市で発生した下校途中の7歳の児童が殺害され、未来あるとうとい命が奪われるという痛ましく許しがたい事件の後、二度と同じような事件が発生しないよう、社会全体で子供の安全を守るための登下校防犯プランとして対策を取りまとめているわけです。もちろんそれを踏まえた形で教育委員会でも対策をとられていることとは思いますが、今お答えいただいた各校の見守り体制というのは、教育委員会ではどこまで把握していたのでしょうか。

今回私も幾つかの学校でお話を伺った中で、この見守り体制について、全て学校ごとの対応にお任せであるということに驚きました。それぞれの学校によって状況や事情に違いがあることは理解できます。だからこそそれぞれの学校の状況を確認し、どのような見守り体制が必要なのか、そのためにはどうしたらいいのか、学校任せではなく、教育委員会も連携して体制づくりを進めていかなければならないと思います。現状を見る限りとても十分な体制とは言えないと思います。学校と地域が一体となって子供を育てていくコミュニティスクールにおいて、さらに多くの地域の皆さんにかかわっていただく、そのために市教育委員会はそれをリードし、それに対するサポートをしていかなければいけないと思います。現在見守りにご苦労いただいている皆さんの服装は学校ごとの対応となっており、まちまちです。当たり前のことですが、見守りは一年中していただいているわけです。雨が降っても、夏の炎天下でも、冬雪が降っても立っていただき、見守っていただいています。最低限帽子やベスト、冬であれば防寒着、そろいのユニフォームくらい市教育委員会で用意するべきだと思います。また、毎日の見守りというのは心身ともに大変なご負担でもあると思います。ご苦労いただいている地域の皆さんの負担を少しでも軽減するには、一人でも多くの方のお力をかりることだと考えます。多くの方がかかわることによって負担が軽減されると同時に、やりがいにもつながると思います。

また、交通事故に対しては交差点などで旗を振っていただいているわけですが、不審者などへの防犯ということでは地域の方の存在そのものがとても効果があるわけです。例えば、登下校時に合わせて散歩をしていただいたり、道路に立っていただいたり、庭に出ていただくだけでもいいと思います。地域の皆さんに大きな負担をかけるのではなく、それぞれできる範囲での見守り活動でも地域の目としての防犯効果は高いと思います。登下校時の安全確保がますます必要となっていく社会において、地域の皆さんを巻き込んだ形での見守り体制の構築は喫緊の課題であると考えます。

そこで、お伺いします。今後の見守り体制の維持、強化をどうしていくのかお伺いし、第2問といたします。

◎教育長（峯村秀則君）

ただいま見守り体制の維持、強化についてご質問いただきましたが、登下校時の防犯対策としての地域連携を構築するため、現在ほとんどの学校でコミュニティスクール運営委員会や学校評議員が中心となりまして、学校、保護者、見守り隊など地域ボランティア、警察、行政等関係機関が集まりまして意見交換や調整を行っております。また、地域ボランティアのキーパーソンの方々には新たな見守り隊員の勧誘やお願いをしていただいております。今後とも市といたしましては、地域の皆さんとの連携を進めて、社会全体で子供たちの安全対策に取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

◆8番（井澤毅君）

ご答弁いただきました。先月川崎で起きた児童ら殺傷事件を受けて、静岡市では防犯パトロールを募集し、ながら見守りを始めるとのことです。内容は、市民や市職員ら大人が通勤や買い物、散歩をしている途中に市が用意した防犯パトロールの腕章を着用するという気軽に取り組める活動です。18歳以上の市民300人を募集して、市職員は150人を任命するそうです。そして、市の公用車全250台を青色防犯パトロール車にするそうです。この市民を巻き込んだながら見守りもすばらしい試みだと思いますが、地域の子供は地域で絶対守るのだという強い意思表示だけでも防犯につながると感じました。こうした活動も参考にしながら、上田市においても地域の大切な子供を守る体制づくりを急ぎ進めていただきたいと思えます。

次の質問に移ります。協力いただいている地域の方々への対応についてお伺いします。地域とともにある学校づくりを進めるには、地域住民の皆さんに日常的に学校に来ていただくことが大事になります。上田市教育委員会のリーフレットにも、笑顔あふれる学校にするには大人たちの作戦会議がとても重要だと書かれています。そのとおりだと思います。地域の方々気軽が集まれる場所、作戦会議をする場所はコミュニティスクールを進めていく上で必要不可欠です。

そこで、お伺いします。地域の皆さんが会合や活動を行うための場所は各校に十分確保されているかお伺いし、第3問とします。

◎教育長（峯村秀則君）

ボランティアの皆さんの居場所が十分確保されているかというご質問でございましたが、ボランティアの皆さんの居場所や会合をする場所につきましては、ボランティアルームのある学校もございますが、現在多くの学校ではその時間にあいている会議室や教室を利用いただいている現状でございます。学校の中にはボランティアの皆さんが休息できる場所を確保したいという声もございます。少子化によりまして空き教室のある学校もございますので、今後これらの状況と学校からの要望を確認しながら対応、検討してまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。

◆8番（井澤毅君）

ご答弁いただきました。具体的にどの程度の学校にどの程度の教室が確保されているかという数字は示していただけなかったわけなのですけれども、コミュニティスクールが効果的に機能すればするほど多く地域の皆さんにさまざまな形で学校にかかわっていただくわけです。コミュニティスクールにおいて地域の皆さんが集まる場所は図書館や体育館と同じようになくはない場所であると考えていただき、まだ整備されていない学校へは早急に対応していただきたいと思います。

続いての質問に移らせていただきます。コミュニティスクールにおける地域の方々への連絡方法について伺います。何校かお話を聞いた中で、学校からの連絡方法は学校ごとの対応でそれぞれ違うということがわかりました。従来はPTAだけでよかった連絡につきましても、先ほど教育長のお話にもありましたように、緊急時の連絡、そういったことで地域の見守り隊の方とか、そういった方にも緊急に連絡する必要が出ております。

そこで、伺います。協力いただいている地域の方々への緊急連絡方法はどうか伺いして、第4問といたします。

◎教育長（峯村秀則君）

ボランティアの皆さんへの連絡方法でございますが、以前は学校からPTAの校外指導部や支部長さんに連絡しまして、各地区のボランティアの皆さんに連絡していただいた学校もございました。しかし、近年は学校から電話やファクスでお願いするほか、通称「オクレンジャー」と呼ばれる一斉メール配信等で依頼する学校もふえてきております。また、緊急時にはより迅速で正確な対応が必要となりますことから、地域の状況等を踏まえて、なるべく多くの学校でメール配信等の適切な連絡方法で対応できるよう検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

◆8番（井澤毅君）

ご答弁いただきました。事件、事故、そして台風などの災害、さまざまな緊急時の連絡は地域の皆さんへ必要なこととなります。ただいま「オクレンジャー」とかという具体的なお話もありましたけれども、年間の費用が1人300円とか、そういった経費がかかり、そういうのも全て学校負担になってしまう、大勢の地域の方がかかわることによって余計経費もかさんでしまうとか、いろいろな問題がございます。先生方は数年で転勤されるとか、そういう事情もございます。そういう中で作業の効率や安定性の面から見ても、市内同じシステムでこういった連絡方法をとった方が、メリットが大きいのではないかと考えます。学校ごとの対応ではなく、上田市全体で再度検討していただきたいと思います。

次の質問に移らせていただきます。平成28年度末から市内全小中学校がコミュニティスクールとなったわけですが、導入前と比べた各学校の状況はどうか伺いして、次の質問といたします。

◎教育長（峯村秀則君）

ただいまコミュニティスクール導入前と比べた現在の各学校の状況についてお尋ねをいただきました。コミュニティスクールは、子供たちを真ん中に、学校、家庭、地域の皆さんが願いを共有し、地域に信頼され、地域とともにある学校を目指して学校運営に参画しながら、互いの声に耳を傾け、知恵を出し合い、一緒に手をとり合って子供たちの健やかな育ちを応援する仕組みでございます。コミュニティスクールの推進することにより、子供たちは多様な地域の皆さんとかかわり、さまざまな経験を積んで生きる力を身につけます。また、地域の皆さんも学校活動に参加することで学校への理解が深まり、さらに住民同士の結びつき、地域のきずなが深まります。

上田市では平成 28 年度末に全小中学校で導入されておりますが、学校によって活動や進捗状況に違いがございます。ボランティア活動の例えを申しますと、花壇づくり、習字や家庭科などの学習支援、休み時間の遊び場などさまざまな活動にご指導、ご協力をいただいております。中には年間延べ 3,000 人を超えるボランティアの皆さんが学校活動に参加している学校もございます。この取り組みを進める中で、コミュニティスクールを導入する前と比べますと、どの学校でもボランティアに参加していただいている地域の皆さんが格段にふえている状況でございます。

また、学校からは、地域の生の声を聞く機会がふえ、地域の声を学校運営に反映し、また課題を共有することができた、あるいは地域の皆さんに応援していただくことで学校運営に自信が持てたという声も聞いているところでございます。以上でございます。

◆ 8 番（井澤毅君）

ご答弁いただきました。学校による違いはありますが、それぞれの学校で少なからずの効果が出ているというご答弁ですけれども、コミュニティスクールの導入は目的ではありません。地域と一体になって課題解決に取り組む仕組みであり、手段でしかありません。地域によって事情も違うので、学校ごと状況は違うのも当たり前のことだと思います。しかし、一方で信州型コミュニティスクールは文科省型のコミュニティスクールではないので、法律で設置が努力義務とされる学校運営協議会、いわゆる文科省型コミュニティスクールへの移行ということも進めていかなければならないと思います。いずれにいたしましても、コミュニティスクールの取り組みを充実、実践させていくことは大変意味のあることだと考えます。

そこで、お伺いします。コミュニティスクールをさらに充実させるためにはどうするべきかお伺いし、第 6 問とします。

◎教育長（峯村秀則君）

コミュニティスクールをさらに充実するためにはどうあったらよいかというご質問をいただきました。さらなる充実につきまして、上田市はこれまでも平成 29 年度から生涯学習・文化財課に統括コーディネ

ーターを1名配置し、さらに生涯学習・文化財課、学校教育課、各公民館等の職員で構成する学校支援プロジェクトチームを招集し、その中の広報部・研修部会において市内のコーディネーターやボランティア、地域の方々との情報交換会や研修会を開催しております。また、平成30年には横浜の先進地視察等も実施しております。プロジェクトチームでは新たなボランティアを集める方策等についても検討し、次年度に向けて準備をしております。また、これから活動を始める方たちのために「学校支援ボランティアハンドブック」、コーディネーターのための「学校支援コーディネーターハンドブック」を制作し、その育成に努めてまいりました。

今後さらにコミュニティスクールの充実を図るためには、まず定期的に各学校の状況を把握し、課題の共有化を図ること、次に学校と地域をつなぐ重要な役割を持つコーディネーターの養成を進めること、さらに学校支援ボランティアの発掘と養成が大切であると認識しております。そのために、市の広報や公民館だよりを大いに活用しまして、コミュニティスクールの活動の大切さや楽しさを知っていただき、地域の皆様にできることからかかわっていただけるよう働きかけに努めてまいります。

いずれにいたしましても、上田市のコミュニティスクールがわずか2年で飛躍的に進んだのは、地域の皆様の学校へお寄せいただく熱い思いと、学校の実情に合わせた支援を的確に把握し、きめ細やかな調整を担ってきた地域のコーディネーターや統括コーディネーターの役割が大きく、このキーパーソンなくしてはなし得なかったこととございます。市といたしましては、今後も子供たちを真ん中に、学校と家庭、地域が手を取り合い、ともに子供たちの育ちを支えるための体制づくりを進めるとともに、持続的かつ自立的なコミュニティスクールとなるよう努めてまいります。以上でございます。

#### ◆8番（井澤毅君）

ご答弁いただきました。私自身、コミュニティスクールの立ち上げから10年ほどかかわってきた経験から、コミュニティスクールの有効性や学校を真ん中にして地域がつながる、学校を核にした地域づくりの重要性ということを感じています。地域の人とかかわりを深め、地域に親しみ、ふるさと学習など地域を学ぶ、自分の住んでいる地域の魅力を知り、地域に愛着と誇りを持つ、まさしくコミュニティスクールは土屋市長の進めている信州上田学を実践していると思います。コミュニティスクールがますます充実していくことを願いながら、次の質問に移らせていただきます。

特別支援教育支援員についてお伺いします。幾つかの学校で話を聞いた中で、支援員さん不足で困っているという声を多く聞きました。その実情についてお伺いします。学校からの要望に対する支援員の配置状況はどうかお伺いして、次の質問といたします。

#### ◎教育長（峯村秀則君）

支援員につきまして、学校からの要望に対する配置状況はどうかというご質問をいただきました。上田市では平成19年度から発達障害等支援を必要とする児童生徒に対しまして、学習や生活上のサポート、

日常生活の介助を行う目的で特別支援教育支援員を配置してまいりました。配置につきましては、支援を必要とする児童生徒数や状況を把握し、学校からの要望を聞きながら人数や活動時間を決めております。本年度は全小中学校に合わせて65人の支援員を配置しております。年々支援の対象となる児童生徒が増加する傾向にありまして、一人一人の教育ニーズも多様化していることから、支援員に担っていただく役割はますます重要となってきております。

例えば、入学直後の小学校1年生のクラスに支援員が入りまして、学校生活や授業に一日も早くなれていくように取り組んでおりまして、大変大きな成果を上げております。学校現場としては児童生徒一人一人にきめ細やかな支援が行えるようにという思いから、要望する時間も多くなる傾向がございます。財政的にも厳しい面がございまして、限られた予算の範囲で学校に配当しておりますが、上田市の配置は県内でも手厚いものと認識しております。上田、東御、小県以外の他郡市から来ている校長、教頭から上田市の手厚い支援員の配置について感謝の声を聞くこともしばしばございます。教育委員会といたしましても、学校現場の状況を考慮しながら配置について精査し、引き続き支援員の充実に向け取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

#### ◆8番（井澤毅君）

ご答弁いただきました。学校からの要望に対する支援員の配置状況ということについて、どの程度満たされているかというような具体的なお答えはちょっといただけなかったのですが、いずれにしても学校の現場においては今支援員さんが、ほかの自治体に比べて上田市は多いというお話でありましたけれども、現場においてはまだ足りない、もっと配置していただけないかという声があるのも現実です。次の質問しようと思ったのですが、今その質問についてもちょっと重なる部分がありましたので、次の質問についてはカットさせていただきますけれども、今現実には支援員さんが足りない部分、こういったのは先ほど言ったコミュニティスクールの仕組みの中で学習支援とか、地域の先生経験者の方が学校に入っているいろいろな形で協力していただいている、そういった形で学校の先生方の負担が少し軽くなる、そういう中で今支援員さんの足りない部分も何とか補っているというような現状もございます。ぜひ現場の状況をもう一度確認していただきながら、この辺また進めていっていただけたらいいかと思っております。

次の質問に移らせていただきます。学校行事におけるバスの送迎についてお伺いします。学校行事における学校からの利用希望に対し配車ができた割合はどうか、お伺いいたします。

#### ◎教育次長（中澤勝仁君）

現在教育委員会で所有しておりますバスは1台でございまして、主に上田地域の小中学校でご利用いただいております。なお、丸子、真田、武石地域の小中学校におきましては、各自治センターが所有しているバスをご利用いただいているといった状況でございます。教育委員会で所有しているバスにつきまし

ては、毎年1月から3月にかけて翌年度の利用希望調査を行っております。利用希望日が重なる場合につきましては、学校に連絡し、調整していただいております。また、学校間の利用状況が二、三年で平均になるよう、前年度の利用回数や高原学習など日程が重なる行事につきましては、調整してバスをご利用いただいているような状況でございます。

ご質問の上田地域の小中学校におけるバス利用の希望に対して配車できた割合でございますが、昨年度の例で申し上げますと約6割といった状況でございます。教育委員会で所有しているバスは1台であるのに対しまして上田地域の小中学校は23校あるため、希望日が重なってしまうことも多く、全ての希望日に配車することは困難な状況となっております。 以上でございます。

◆8番（井澤毅君）

ご答弁いただきました。このことについてはどこの学校でも同じことを言われました。教育委員会から配車されなかった場合は、行事を取りやめるわけにいかないのでもって学校でバスを手配すると、そしてその使用料は学年費から支払っているとのこと。義務教育の授業の中でのバス代をなぜ学年費から払わなければならないのでしょうか。配車されれば払わなくて済むお金であります。

そこで、お伺いします。利用希望に応じられない場合は学校で直接バスを手配する一方で、費用は保護者負担となり、利用する児童生徒数によって負担額が異なるなどの問題があるが、対応策は検討しているか、お伺いします。

◎教育次長（中澤勝仁君）

先ほど述べましたように、教育委員会で所有しているバスは1台であるため、児童生徒数が多く、同学年のクラスが複数ある学校や希望日に借りられなかった学校には民間バスの手配をお願いしております。こうした状況を踏まえまして、教育委員会では平成29年の5月に平成28年度の小中学校のバスの借り上げ状況について調査いたしました。その結果、学級数や児童生徒数、また教育委員会所有バスの利用回数等を考慮し、負担額の大きい学校に対しましては、平成30年度からバス借り上げのための予算を配当するように努めてきたところでございます。また、小学校6年生を対象といたしました市内連合音楽会、あるいは小学校5年生を対象にした劇団四季の「こころの劇場」等でバスを利用していただいた場合につきましては、全額を市のほうで負担しておるといったような状況でございます。なお、保護者の方にご負担をいただいております主な行事といたしましては、修学旅行や遠足などがございます。以上でございます。

◆8番（井澤毅君）

ご答弁いただきました。ただいまのバスのことについては、また私のほうも現場等で現状どうなのかを確認してみたいと思います。



それでは、最後の質問に移らせていただきます。通告したときはまだわかっていなかったのですが、きょうの東信ジャーナルさんの記事で出てしまったのですが、災害とも言われた昨年の記録的な猛暑を受け、小中学校でエアコンが必要とされる全ての普通教室などにエアコンを設置する計画ですが、当初設置完了は6月末と聞いておりますが、工事の進捗状況はどうかお伺いして、最後の質問とさせていただきます。

◎教育次長（中澤勝仁君）

昨年12月市議会におきまして空調機器設置に係る工事請負費として16億7,700万円を補正予算としてお認めいただきました。その後上田市におきましては、子供たちの熱中症予防の観点から早急に空調機器を設置する必要があるとして、ことし6月末までに空調機器を設置することを目標に早期に工事の発注を完了するなどの対応を行ってまいりました。その結果、早いところでは3月下旬に室内機が設置された学校もあるなど、工事はおおむね順調に推移いたしまして、空調機器を設置する32校中8割以上となる26校におきまして6月末までの機器の設置が完了する見込みとなっております。残りの6校でございますが、全国の自治体がことしの夏までに空調機器設置を目指す中で、機器を製造するメーカーの対応が需要に追いつかず、機器の納期がおくれております。上田市では配線や配管などの工事はほぼ完了し、機器が納品され次第速やかに接続できる状況となっておりますので、機器が納品される7月から夏休みにかけて全ての学校への機器設置が完了する予定となっております。

なお、これらの学校につきましては、夏の暑さにより体調を崩すおそれがある場合には、既に空調機器を設置している保健室やパソコン教室等を活用するなどして児童生徒の健康管理を行っていただくとともに、教育委員会といたしましても、全ての学校に一日でも早く空調機器が設置できるよう引き続き鋭意取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。